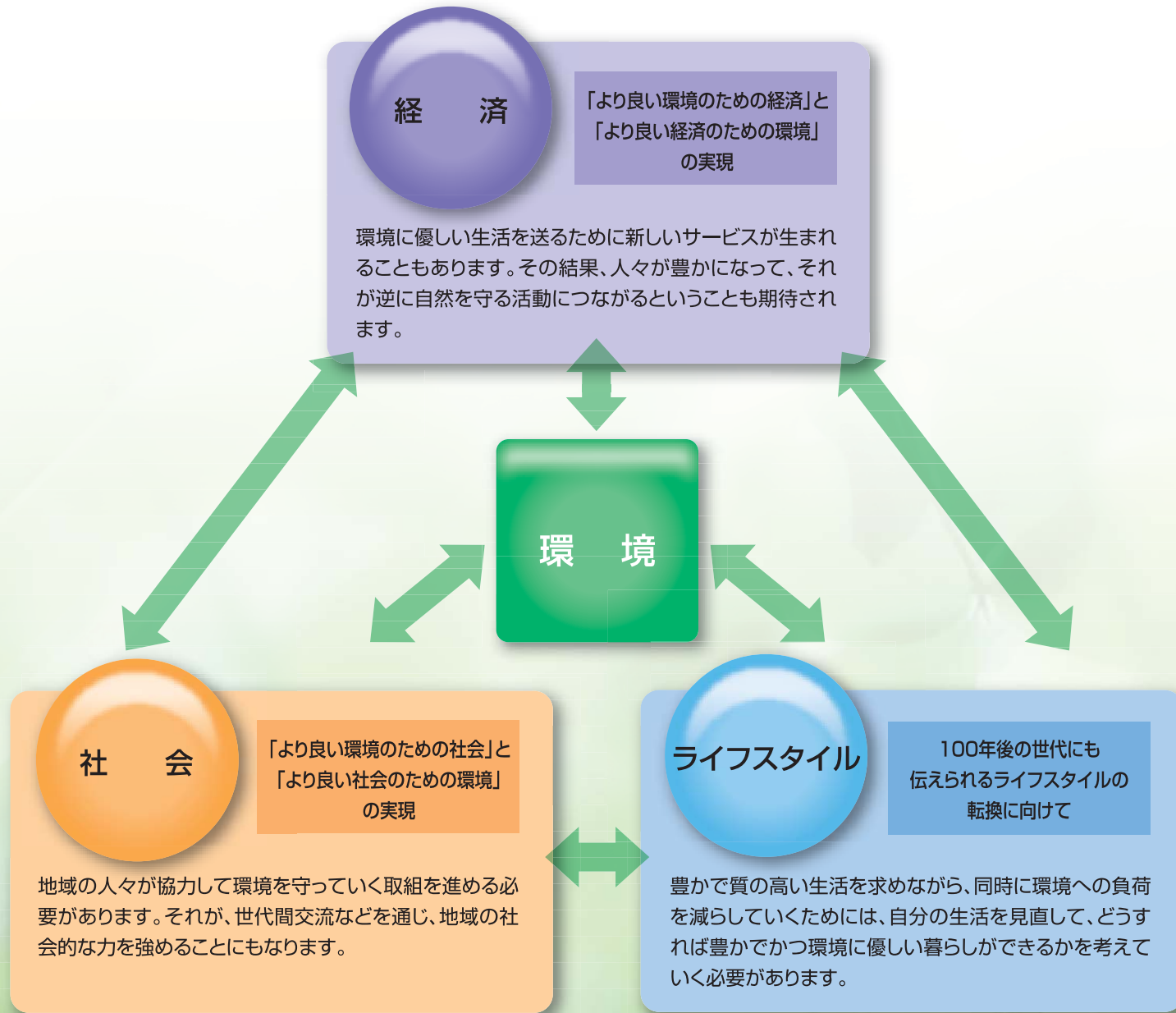


環境基本計画では、次の6つの方向を掲げて皆様の理解を深め、共感そして協力が得られることを目指しています。

① 環境的側面、経済的側面、社会的側面の統合的な向上



② 環境保全上の観点からの持続可能な国土・自然の形成

わたしたちを取り巻く自然は、暮らしに様々な恩恵をもたらしています。木々が空気をきれいにしたり、身近に川があることで夕涼みの風が送られてきたりします。そのような自然の働きを守り、強めていく必要があります。日本全体に生物の生息・生育空間の配置やつながりが確保された生態系のネットワークをつくっていく必要があります。先人が残してくれた社会資本やこれまでの農林水産業の営みによって守られてきた環境の機能が十分に発揮できるようにする必要があります。このような取組を通じて、生物多様性を保全し、将来に向けてより良い国土を残していかなければなりません。

③ 技術開発・研究の充実と不確実性を踏まえた取組

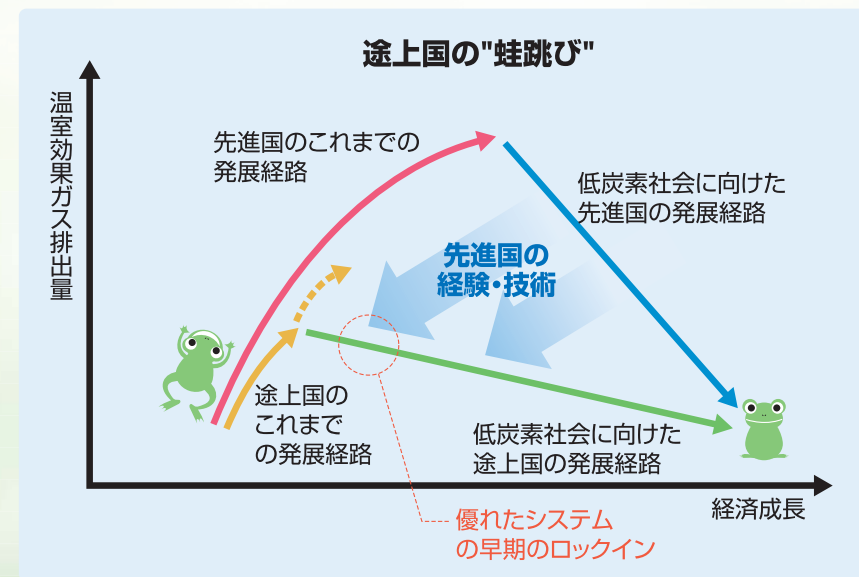
環境問題を解決するためには、その原因や仕組みがわからなければなりません。また、その対策のためには科学技術が大きな役割を果たします。このため、技術開発や研究をいっそう充実させていきます。一方、その時々においてわからない点があっても、わからないからといって何もしないと、後で取り返しがつかなくなることがあります。このような問題に対しては問題の大きさなどを踏まえて、予防的に取り組めます。そして、新たにわかったことがあれば、対策も柔軟に変えていきます。

④ 国、地方公共団体、国民の新たな役割と参画・協働の推進

環境を守るためには、一人一人の国民をはじめ、企業や団体と地方公共団体、そして国が協力しながら、それぞれの役割を果たしていく必要があります。そのためにも、お互いによく情報交換しながら、一緒になってどうやって環境を守るかを考えていく必要があります。

⑤ 国際的な戦略を持った取組の強化

世界中の人々が協力しなければ解決できない環境問題がたくさんあります。そのような問題を解決するための取組やルールづくりに積極的にかかわっていく必要があります。また、日本のこれまでの経験をこれから発展しようとしている国々で役立ててもらいましょう。



⑥ 長期的な視野からの政策形成

地球温暖化問題などに見られるように、今のわたしたちの暮らしが、将来の人々に大きな影響を与えるかもしれません。例えば50年後といった長期的な視点に立って、今からわたしたちの社会の将来像を思い描き、そうしていくためにどうすればよいかを考えていく必要があります。

